

「県立高校改革リーディングプロジェクト推進事業」

事業報告書

学校 番号	39	学校名	東濃高等学校	課程	全日制
----------	----	-----	--------	----	-----

事業の名称	コミュニケーション能力向上のための 演劇表現ワークショップ及び多文化共生教育
-------	---

1 3年間の事業の概要

1年生を対象として、次の2つを実施。

- ・コミュニケーション能力の向上を目的に、専門家による演劇表現ワークショップを導入し、職員による今後の実施を模索した。
- ・キャリア教育プログラムとして地元企業やNPOと連携して、協働することでコミュニケーション能力の向上を図るとともに、職業観、勤労観を育成する。外国人生徒を対象として実施
- ・日本語の習得が未熟な生徒に対して、日本語の補習や日本語検定を実施するとともに、日本で働いている外国人の方のお話を聞き、将来設計を考えさせる。

2 3年間の取組（実施した内容）

1. 演劇表現ワークショップについて

・ 【3年間の事業の流れ（概要）】

平成25年度

- ・1年生全員を対象にワークショップを実施
- ・2年生の希望者に発展的な内容のワークショップを実施した。
- ・学校設定科目等、この取組の教育課程における位置づけの研究した。

平成26年度

- ・1年生全員を対象にワークショップを実施した。
- ・2、3年生の希望者に発展的な内容のワークショップを実施した。
- ・学校設定科目等の内容など具体的な検討した。

平成27年度

- ・1年生全員を対象にワークショップを実施した。

2. 地元企業等との協働事業について

- ・5人程度のグループに地元企業等が持つ悩み、課題を提示してもらい、生徒が解決案を考案。それを企業等に提示し、企業とよりよい解決案を探った。
- ・5人程度のグループが地元企業等に訪問し、やりがいを持って仕事をしている企業人より「働くこと」の意義などの話をしてもらった。
- ・生徒は各々の活動の前に各企業等について調べ、企業等の方への質問事項を事前に十分検討をした。
- ・NPO職員は、企業との調整、グループ討論や企業の人と話し合いのリード、解決案などのまとめについての指導・助言を行った。

各グループがまとめを企業の人や地域の方の前で発表し、評価していただいた。

3. 外国人生徒支援プロジェクトについて

平成25～26年度

- ・平成23年度から20～30人程度入学するようになった外国人生徒（主にブラジル、フィリピン）に日本語指導をした。
- ・外国人の団体による日本の文化と倫理観等の習得支援をした。

平成27年度

- ・外国人生徒に進路支援をした。

3 成果の分析

◎この事業を行ったことで安定した学校生活を送る生徒が増え、学校に活気が出てきた。

○1. 演劇表現ワークショップについて

平成25年度より毎年3回から4回演劇表現ワークショップを実施したことで1年次での退学者数が30から10程度に減少した。また、11月に実施した文化祭において多くのクラスが演劇を発表するようになり、その質も向上してきている。



○2. 地元企業等との協働事業について

平成25年度より実施したところ、今年度の卒業生の就職希望者は4割から5割に増加。また、一次での内定率が70%から80%超になった。



○3. 外国人生徒支援プロジェクトについて

平成25年度より実施したところ、外国籍生徒の日本語検定4級合格者が2倍になった。また、正規採用の生徒もでてきた。

【関連資料】

- ・演劇表現ワークショップ～新聞記事

中日新聞
四月十八日

自己紹介は決めポーズ ジェスチャーで意思伝達 東濃高で文学座出張講座

御嵩町御嵩の東濃高校は、文学座（東京都）の演出家西川信広さんと俳優4人の出張講座を開いた。1年生のコミュニケーション能力向上を目的に4年前から続けている。

西川さんらは16、17の両日、1年生124人を指導した。パントマイムの要領で、縄を使わない大縄跳びで体をほぐした後、それぞれの生徒が考えた決めポーズを付けて自己紹介したり、ジェスチャーで意志を伝えるゲームをしたりした。

西川さんは「これは俳優になる訓練と同じで、集中力、自己を開放する力を磨いてほしい。相手が出すメッセージに気付く『反応力』も大切で、コミュニケーションの第一歩だ」と論じた。

初年度は文学座と地域拠点契約を結ぶ可見市文化

レクリエーションのルールを説明する文学座の西川さんを御嵩町の東濃高校で

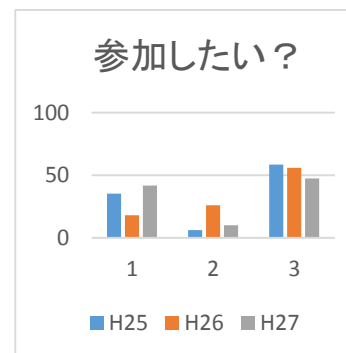
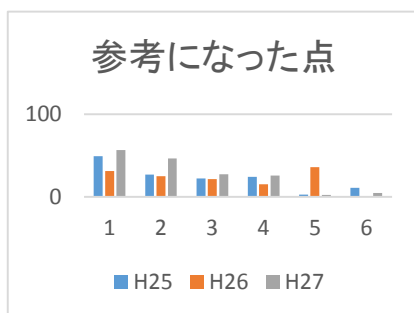
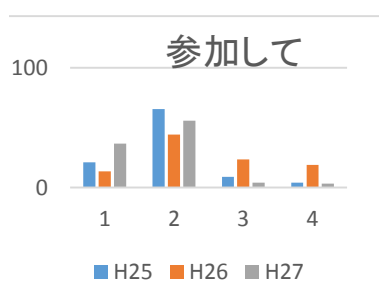


創造センターの仲介で始まり、2年目からは県教委の事業に採用された。

5月、7月と2学期にも1回、講座を予定している。片山澄美教頭は「前年より早い時期に始まった。入学したばかりで、まだつながりができていない生徒たちに効果があるだろう」と期待する。（遠藤康訓）

・ 演劇表現ワークショップ～生徒アンケート

	実数	%	実数	%	実数	%
1. 非常によかった	21	21.2	15	13.5	44	36.7
2. よかった	65	65.7	49	44.1	67	55.8
3. あまりよくなかった	9	9.1	26	23.4	5	4.2
4. よくなかった	4	4.0	21	18.9	4	3.3
生徒数	99		111		120	
(2)演劇ワークショップを体験して参考になった点(複数回答可)						
	実数	%	実数	%	実数	%
1. 人とのコミュニケーションの取り方	49	49.5	35	31.5	68	56.7
2. 人の話を聞くことの大切さ	27	27.3	28	25.2	56	46.7
3. 人の気持ちを考えて行動したり、話をするようになった	22	22.2	24	21.6	33	27.5
4. クラスなどの友達と前より仲よくなった	24	24.2	17	15.3	31	25.8
5. 参考になることはなかった	3	3.0	40	36.0	3	2.5
	11	11.1		0.0	6	5.0
(3)また演劇ワークショップがあれば、参加したいか						
	実数	%	実数	%	実数	%
1. 参加したい	35	35.4	20	18.0	50	41.7
2. 参加したくない	6	6.1	29	26.1	12	10.0
3. どちらでもよい	58	58.6	62	55.9	57	47.5



主な記述回答

<H25>

楽しかった。とてもおもしろい。他のクラスの人とコミュニケーションができた。いろいろなゲームができた。自分や仲間のことについて考えることができた。

<H26>

判断力やチームワークなど楽しく学べた。楽しいし、しゃべったことがない人としゃべれた。コミュニケーションをどうすれば、自分の思いを相手にとどけられるかがわかった。

<H27>

楽しかった。みんなが笑顔になれていたから。全力で取り組むホッシーやアコさんがすごかった。話したことのない人と話せた。いろんな体験やいろんな思いができた。絆が深まった。クラス全員が馴染んでいた。有名人が来てくれたから。

・ 外国籍生徒在籍状況

	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
1年生	外国人	4	5	8	10	10	24	28	19	21	28
	全員	105	141	127	118	140	129	126	120	124	124
	割合	3.8	3.5	6.3	8.5	7.1	18.6	22.2	15.8	16.9	22.6
全校	外国人	5	10	16	20	26	40	56	58	59	62
	全員	379	371	337	318	321	313	310	306	317	326
	割合	1.3	2.7	4.7	6.3	8.1	12.8	18.1	19.0	18.6	19.0

・ 地元企業等との協働事業～新聞記事



グループでまとめたアイデアを発表する生徒たち＝御高町の東濃高で

2月10日（水）
中日新聞 可児版

発表後、町職員や各企業の代表者らによる講評があり、「斬新なアイデアで、将来的に取り入れるかもしれない」などと好意的に評価していた。
(篠塚辰徳)

御高町の東濃高校から始めた職業理解のた。フィリピンやブラジルなど外国籍の多いで、一年生が町役場や教育プログラム。一年生百十三人が五人前後のグループで、先月から町役場や企業を訪問し、アイデアを練った。「電車内のアナウンスに英訳を入れて分かりやすくしよう」「町を案内する通訳が必要」と提案した。

外国人に町をどうPR?

御高・東濃高 アイデア発表会

ミニ報告会

同校が二〇二三年度で、二分程度でまとめ

・ 地元企業等との協働事業～ミッション協力企業・団体より抜粋

< 取組 >

・ 思った以上に真剣に考えてくれた。

< 発表 >

・ 外国人生徒の日本語の堪能さにびっくりした。こうした(外国人生徒と日本人生徒の)交流ができるのは東濃高校の特長である。

< その他 >

・ (実際に自分の目で見て) 学校のイメージがよくなった。

・ 学生スタッフのファシリテートもうまかった。

・ 地域に支えていただいている。地域の学校として、これからもがんばっていただきたい。

4 課題と今後の対応

◎ 1. 演劇表現ワークショップについて

< 課題 >

・ 文学座の演出家によるワークショップという非日常的な形態を在籍教員で実現するのが難しい。

< 対応 >

・ 非日常を演出するためには、外部の指導者によることが望ましい。

○ 2. 地元企業等との協働事業について

< 課題 >

・ 外に出るための移動手段の確保。大学生の人材確保。

< 対応 >

・ 外部からの補助を訴える。

○ 3. 外国人生徒支援プロジェクトについて

< 課題 >

・ 外国人で生徒の手本となる方を見つけるのが難しい。

<対応>

- ・フレビア等に相談して開拓していく。

5 平成28年度以降も継続する取組

◎ 1. 演劇表現ワークショップについて

- ・1年次生のコミュニケーション能力の向上と4月のエンカウンターとしてとても効果的であるので、自己資金等によりこの事業を継続する。

2. 地元企業等との協働事業について

- ・1年次生の2月のコミュニケーション能力向上の実践の場として、またキャリア意識の向上のためにとっても重要なので、外部の援助等によりこの事業を継続する。

3. 外国人生徒支援プロジェクトについて

- ・外国籍生が日本での生活を安心して送れるように、各学年に外国籍クラス（国際クラス）を設置。また、日本語習得のために学校設定教科「日本語」を作った。「先輩に聞く」会は、フレビア等と相談し人材を確保する。

6 成果の普及（予定を含む）

◎ 1. 演劇表現ワークショップについて

- ・本校で実施したワークショップの手順等を公開し、実施時には視察者を受け入れ、同様な悩みを持つ学校のヒントとする。

2. 地元企業等との協働事業について

- ・本校で実施した協働事業の手法を公開し、実施時には視察者を受け入れる。

3. 外国人生徒支援プロジェクトについて

- ・他県等からの視察者を積極的に受け入れ、外国人指導、日本語指導を広める。

7 自校の成果を他校が活用する場合の留意点等

◎ 1. 演劇表現ワークショップについて

- ・同様な効果を期待するには指導者の大きな力量が必要である。専門的に演劇を行っている方が望ましい。

2. 地元企業等との協働事業について

- ・NPOの学生の援助は生徒にとって新鮮な刺激となる。課題を出していただける地元の企業の開拓が必要。また、教員の人数確保のため、3年生の家庭学習期間が望ましい。

3. 外国人生徒支援プロジェクトについて

- ・講師として 渡辺マルセロ氏（行政書士）／山田バルデマル氏（トヨタ自動車大学校 講師）ダニー・キミコ氏／フロレンス・マリ氏、佐々木カリナ氏／バクシカン・カリル氏、与那覇ロナリン氏／カシワギ・ダイチ・リー氏実施した。
- ・日本語の指導は「国語」とは異なる点を把握して指導に当たる必要がある。